



Newsletter

No. 58

2014年7月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

## ドキュメンタリー映画から社会が見える！

—レイバー映画祭 7月26日・田町で開催—

6月12日、21歳の男子学生が、事務所を訪ねてきた。「DVD『人間を取り戻せ！大久保製塩闘争の記録』を見て感動した、ぜひ制作者の話を知りたい」ということだった。ひとしきり話しこんだあと、いまの学生の意識はどうなっているのか？と私は尋ねた。かれはこう答えた。「社会運動に対する偏見が強い。仲間を大切にすることを教わっていない。自分さえよければいいと思っている。そういう人がほとんど」と。なるほど、学生が社会運動に登場しなくなって久しいが、長年にわたる競争主義の管理教育が功を奏していたのだ。「社会運動への偏見」を持たれているのは運動側の問題でもあるだろう。しかし何とかしなくてはならない。会話の中で、ひとつかれはヒントを言っていた。「そうした学生の間でも、ドキュメンタリー

映画はいい。いい映画を見て現実を知ると、『これはまじいよね』『なにかしなくては』と考え、行動を起こすことがある」という。そうした作品のひとつに『標的の村』を挙げた。元来、正義感の強いのが若者。ドキュメンタリー映画は、かれらが社会とつながる重要な入口であることを再認識させられた。今年も7月に「レイバー映画祭」を開催するが、そうした若者との出会いの場になればうれし

い。(松原明・レイバーネット日本共同代表)



## レイバー映画祭 2014

7月26日(土) 10.00～17.15

東京・田町交通ビル 6F ホール

〔プログラム〕

9.30 開場

&lt;一部・差別をこえて&gt;

10.00～12.00

●「60万回のトライ」トーク＝朝鮮学校生(予定)

12.00～12.30 休憩 30分

&lt;二部・いまフクシマは&gt;

12.30～14.40

●「あしたが消える どうして原発？」

●「A2-B-C」

&lt;三部・立ち上がる労働者&gt;

14.50～17.15

●「続・メトロレディーブルース」

トーク&amp;パフォーマンス＝メトロコマース支部

●「食欲の帝国」

17.15 終了

参加費 一般当日 1700円 前売・予約 1500円

学生・失業者・障がい者(一律) 1000円

電話予約 TEL03-3530-8588 (FAX03-3530-8578)

主催 レイバーネット日本

http://www.labornet.jp.org/



## &lt;レイバーネット活動予定&gt;

## ●レイバー映画祭 2014

7月26日(土) 田町交通ビル 6F ホール

## ●納涼パーティ&amp;ディスカッション

8月20日(水) 午後6時半

新宿バンブースタジオ(竹林閣)

\*内容はこれから具体化。企画提案歓迎。

## ●レイバーネットTV(2014年後期・全7回)

73号 9月10日(水)

74号 9月24日(水)

75号 10月8日(水)

76号 10月23日(水)

77号 11月12日(水)

78号 11月26日(水)

79号 12月10日(水)

## ●レイバーフェスタ 2014

12月20日(土) 田町交通ビル 6F ホール

## 「レイバーネット TV」成果と試練～2014 年前期



4年目に入った「レイバーネットTV」の試み。放送回数もすでに72回になった。2014年前期は2月～6月のあいだに、月2回（第2第4水曜日）の定期放送を行った。毎回の生

視聴者数が100～200で、アーカイブ視聴数が500～2000というのが平均的な数字である。数字的にはもう1ケタ増やしたいところだ。しかし「レイバーネットTV」をやってきたことで、新たな広がりがある。最近の入会者もTVがきっかけになっていることが多い。今期最終回の72号「狭山事件を知っていますか？」は大好評で、大きな反響があった。

しかし、今期のトピックはなんとといっても5月14日の第69号放送「特集・PC遠隔操作事件～ズバリ！片山祐輔さんに聞く」だった。この日の放送が一つのきっかけになって、翌日から事態が急展開。片山さんの自作自演が明らかになるにつれ、レイバーネットTVスタッフにも激震が走った。急遽、スタッフ緊急会議を開催し、対策・問題点・経緯を徹底的にディスカッションした。そして見解を次の放送日冒頭に発表することができた。

2ちゃんねる掲示板で騒がれたり、NHKニュースのトップに「レイバーネットTV」の画面が出るなど、いろいろあった。「レイバーネットTV」にとっては試練だったが、それを避けずに受け止めたことで、私たちは多くの教訓を得ることになった。今後の番組制作に活かしていきたいと思う。なお、TVコメンテーターである山口正紀さんが、関連記事を「週刊金曜日」に寄稿した。以下、掲載するので参考にしてほしい。（レイバーネットTVプロジェクト）

### 捜査・犯人視報道批判は正当だ／PC遠隔操作事件

山口正紀

PC遠隔操作事件で逮捕・起訴され、無実を訴えていたKさんが5月19日、弁護人に「事件への関与」を告げ、3日後の公判で起訴事実を全面的に認めた。

この新たな展開を受け、これまでKさんや弁護人の無罪主張を伝えてきたジャーナリストやメディアを非難して、「犯人を擁護した責任をどう取るのか」などと釈明を迫る動きが一部週刊誌やネット上で起きている。

たとえば『週刊ポスト』6月6日号は、「『ネコ男』に翻弄された「冤罪キャンペーン報道」の罪と罰」と題し、「14回もの・擁護記事・を展開した週刊誌はこの急展開にどう弁明するのか」と『週刊現代』を名指しで批判。「法廷で白黒が争われている最中から「さん付け」を通して来た同誌には、●●被告（註：原文実名）が無罪であるという確証があったのか」と迫った。

その『週刊現代』6月7日号では、ジャーナリストの青木理さんがコラムで「PC遠隔操作事件「悪人の肩を持つのか」との罵声にお答えする」と題し、非難に回答している。青木さんは今回のことで複数のメディアから取材を受け、犯人に騙され、肩入れした、と批判されたという。コラムはそれに反論しつつ、「今後も被疑者、被告人の言い分に耳を傾け、警察、検察の捜査や刑事司法の問題点を疑義を唱え続ける」と宣言している。

ほかにもネットなどでバッシングされた江川紹子さん、岩上安身さんらが、各媒体で今回の問題に対する考えを展開している。いずれも共感できる内容だ。

インターネット放送「レイバーネットTV」も、5月14日の放送でKさんと弁護人をゲストに事件を特集、それがネット上で非難された。それに対する反論も含め、同TVは28日の放送で、特集の趣旨、番組進行と問題点など「スタッフ一同の見解

を土屋トカチ・キャスターが説明。同TVで随時コラムを担当している私がコメントした。

同TVは「大手メディアが報道できないようなニュースを紹介するオルタナティブメディア」として少数者の声を伝えてきた。今回この事件を特集した理由は、①4人が誤認逮捕された②Kさんが無実を主張③捜査機関が取り調べ可視化の求めを拒否し、長期勾留・逮捕時マスメディアが大報道したのに、保釈後もKさんの主張があまり伝えられていない——の4点。

土屋キャスターは企画から放送までを振り返り、14日の番組の最後に「有罪か無罪か」をスタジオ内と視聴者に問いかけたことについて、「その場の情緒的気分に流され、十分な議論と材料のないまま判断を煽る表現になってしまった」と反省した。

それを受け、私は「番組が情緒的な終わり方になったのは問題だが、放送全体の内容、スタンスは決して間違っていない」として、次のように話した。

〈昨年2月の逮捕時、大手メディアはKさんのプライベート写真まで隠し撮りし、大々的な犯人視報道を繰り返した。公判が始まってからもKさんの保釈後も、弁護側の主張はほとんど報道されてこなかった。この時点で、レイバーネットTVが弁護側の主張をきちんと伝えることには意味があった。1年以上の長期勾留、自白強要の人質司法、逮捕情報をメディアにリークして大報道させる「劇場型捜査」など、弁護人が語った捜査批判は妥当な内容だった〉

私は今回のことで、新聞記者やフリージャーナリストが冤罪事件の取材や捜査批判に消極的になることを心配する。メディアの仕事は犯人探しではなく、捜査機関の監視だ。それには、被疑者・被告人の訴えに耳を傾けることが不可欠だと思う。

（『週刊金曜日』6月13日号・「人権とメディア」）

## 木下昌明著『<いのち>を食う～3.11後の映画と現実』 「元祖フリーター」の貴重な映画批評

木下昌明さんが新著『<いのち>を食う～3.11後の映画と現実』（續文堂）を刊行した。「レイバーネットTV」でも取りあげたが、視聴者プレゼントで本を読んだF・Tさん（東京在住）から、感想が寄せられた。以下、紹介する。（編集部）



いのちを食う  
3・11後の映画と現実

木下昌明

原発・TTP・米軍基地・がん

「放射線を浴びたX年後」「原発占拠」  
「ハンナ・アーレント」「舟を編む」  
付録DVD/木下昌明・3分ビデオ編集

續文堂 定価1800円＋税

映画好きゆえに映画関連の書籍もよく目にする。その中において『スクリーンの日本人』は異質の存在に感じられ、以来、著者木下昌明の名前は気になるものとなっていた。その後、特に縁のないまま時を経て、たまたまレイバーネットTVを視聴するようになり、そこで木下さんと「再会」することとなった。そして、今回幸いにも、視聴者プレゼントとして、木下さんの新著『<いのち>を食う』を読む機会を得た。

一般の映画評論家は、映画を芸術的表現方法として論じたり、制作現場の背景について蘊蓄を披露しがちだが、木下さんの著書はどれとも違っていた。それがどこに由来するものかうまくつかみ切れなかったのだが、今回ぼんやり見えてきたのは、映画を語る木下さんの視点の底に人権を基本に据えた価値観があることだった。そこに考えが至ったとき、『スクリーンの日本人』を読んだ折、そこにフェミニズムに寄り添うような視点を感じたこ

### レイバー映画祭・作品紹介

#### ●ドキュメンタリー映画『60万回のトライ』 胸に響く「ノーサイドの精神」

久しぶりにさわやかなスポーツ映画をみた。舞台は東大阪の花園ラグビー場に近い大阪朝鮮高級学校で、登場人物はラグビー部の先生と生徒たち。このチームは2010年、全国大会でベスト4になり、その名を知らしめた。そこで「みんなで日本一になろう」が夢となり、日々練習に励む。

まず、彼らの“ムキムキマン”の肉体に圧倒される。円陣を組んで、「ハナ・ミドウン・スンリ（一つになる・信じる・勝つ）」の合言葉を叫んで大地を蹴るシーンがいい。チームは一丸だが、映画は主将のガンををはじめ一人ひとりの表情も豊かにとらえている。

なぜラグビーに熱中するのか？ そこに在日朝鮮人の苦難の歴史があった。戦後、日本にとどまった60万人が、かつて日本の植民地支配によって廃止された民族の言葉を取り戻そうと、各地に国語講習所を設けたのが朝鮮学校のはじまりだった。無償化要求の記者会見で、「試合中はそれぞれのサイドに別れて闘うが、終われば仲よく交流します」というガンの訴える「ノーサイドの精神」が胸を打つ。（木下昌明）

監督：パク サユ・パク トンザ 2013年・106分

#### ●『あしたが消える どうして原発？』構成： 千葉茂樹 1989年・55分？

チェルノブイリ原発事故から3年後の1989年、世界が原発への不安を抱くなか日本の福島第一原子力発電所を迫って製作されたドキュメンタリー。福島第一原発の提起検査などに携わっていた52歳の父を骨がんで亡くした仙台市の主婦による新聞投書をきっかけ



全然わかっていない

作・吉花花

とを思い出した。やはり、木下昌明は異質の映画評論家に違いない。

また、付録のDVDで語られた木下さんの「履歴」も興味ぶかいものだった。派手な経歴とは無縁の「元祖フリーター」を名乗るにふさわしいものと思われ、私のように弱小企業の貧乏労働者であった者にも親近感を抱かせるものだった。木下さんは私よりほぼ一回り年長にあたる。こういう先輩の存在は、今後の自分の人生を考える上でも貴重な指針を示してくれ、励みともなる。今回の著書を通しての出会いに感謝したいと思う。（F・T）

に、日本の原発で働く労働者、被ばくの危険性を明らかにしようと奮闘する医師、福島第一原発4号機の設計に携わった現サイエンスライターの田中三彦氏らの証言を集めた。

#### ●『A2-B-C』 監督：イアン・トーマス・アッシュ 2013年・71分

福島で生きる子どもたちに、今何が起きているのか。日本在住の米国人監督が、フクシマの実態を追った迫真のドキュメンタリー。「ただ福島の子供たちの怒りに心が動いた。母親たちの声だけでいい」（イアン監督）と、ナレーションも音楽も一切なしの70分。カメラの前で「私はA2（甲状腺にのう胞あり）」と言う女子高生。日本政府が、もっとも隠したい真実がここにはある。世界の映画祭で上映され、圧倒的支持を得た。

#### ●『続・メトロレディーブルース』制作：ビデオプレス 2014年・40分

2013年3月のストライキから1年。非正規差別が依然として続くメトロの売店。親の介護、家族の問題、迫る定年、組合員一人一人の心はゆれる。さまざまな困難を抱えながら、2014年5月、組合はついに二度目のストライキに立ち上がった。圧倒的共感を呼んだ「メトロレディーブルース」（2013年）の続編。

#### ●『食欲の帝国』監督：ホン リギョン（青い映像） 2014年・韓国・92分

韓国のグローバル企業・サムスン半導体工場が多発するがんや白血病。すでに66名が亡くなっている。韓国の独立映画集団「青い映像」は3年かけて被害労働者と家族を取材し、サムスンの隠された真実を暴露するこのドキュメンタリーを完成させた。夫の死を究明するために立ち上がる母親。巨大資本との厳しい闘い。韓国では2014年3月に封切りされた。

## 新入会員紹介

### ●働くドライバーの問題に取り組む 梅木隆弘

プレカリアートユニオン（田口運送グループユニオン書記長）の梅木隆弘です。先日は、レイバーネットTVで、アピールの機会をいただき、本当にありがとうございます。あらためてお礼を申し上げます。詳細は、ぜひ、ブラック企業被害対策弁護団編、清水直子著『ブラック企業を許さない！』（かもがわ出版）をご覧ください。運送業界で働くドライバーは、いくつもの問題に直面しています。①長時間労働・過労死、②残業代未払い、③商品事故



の給料天引き、④労災かくし、⑤若年層ドライバーの減少・人手不足、⑥働く上での法律知識の欠如、など。この業界が破たんしかねない問題ばかりです。ハンドルの握っている多くの仲間がこのような問題を跳ね返すべく頑張っています。これからもご注目、よろしければお声かけください。詳細な説明をいたします。今後ともよろしくお願ひいたします。プレカリアートユニオンのブログ <http://d.hatena.ne.jp/kumonoami/>

### ●今の構造から抜け出すために 木原涼子

新入会させて頂きました木原です。皆様の個性豊かで鋭く力強い、また、ユーモアや風刺溢れる活動に惹かれ、勉強させて頂けたらと思いました。代々木在住。出身は大阪の南河内です。原発問題、福島や沖縄、田舎や弱者を犠牲にするシステム、再びアジアの若者同士を殺し合いに向かわせる戦争国家作り…。構造の闇は深過ぎて、この枠の中にいると、真っ当な感覚がどんどん狂わされていく危険を感じています。今の構造から抜けていく人が増え、それぞれの人間性や自由な表現、そして生命が尊重される社会を構築するために、多くの人達でつながっていったらというのが私の一番の願ひです。どうぞ宜しくお願いします。

### ●古代史を研究しています 井内誠司

この度、会員になりました井内誠司と言います。家庭教師業で食いつなぎながら、HP (<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~inouchi/index.htm>) で古代史の研究を発表しているという「変わり種」です。家庭教師業は「業務委託契約」なので当然、非正規雇用です。基本的人権をいつ侵害されてもおかしくないの、自分の人生を守るために入会しました。色々、ご教示ください。また、送っていただいた冊子『文化のないたたかいなんてありえない！』は大変、興味深かったです。歴史学は紛れ

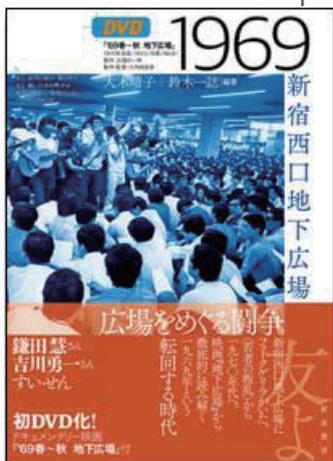
もなく「文化」の一部ですが、残念ながら人権を守るためのたたかいと十分、連動しているとは言えません。古代史を研究していると、「国家のやっていることなんて、1300年前とほとんど変わらないじゃん」ということは、結構、あるのですがね（もちろん、こういう認識自体は歴史的思考とは言えません）。というわけで、メーリングリストで「井内誠司の『生き残る』ための古代史講座」という連載を始めました。ご笑覧いただければ幸いです。

## 会員の最新刊紹介

### 『1969 新宿西口地下広場』

大木晴子・鈴木一誌 編

1969年2月、数人の若者が新宿西口地下広場でギターを鳴らして反戦歌を歌いだした。彼らは3月の毎週土曜日からここに集まり歌をうたい、自らを「フォークゲリラ」と名乗った。一時は5000人を超える人びとを集めたこの集会は機動隊の出動で、7月26日の土曜日を最後に集会不可能となる。本書はこの間の記録を丹念に追った映画『地下広場』（大内田圭弥監督／1970年／白黒／84分）から、1969年という時代の社会世相を読み解く。論考・エッセイ（上野昂志、なぎら健壺、筒井武文など）、インタビュー、映画シナリオ採録、大内田圭弥監督フィルモグラフィ、関連年表収録。A5判／並製／208頁／DVD映画『地下広場』付 本体3200円（税別）



### 『月刊・社会教育』にレイバーネット記事

『月刊・社会教育』7月号に松原明のインタビューが掲載された。内容は「市民運動・新しい労働運動をなぜ、どのように広げてきたのか」と題したもので「ビデオプレス」「レイバーネット日本」の歩みなどを、9ページにわたって語っている。720円。注文は、国土社 03-5348-3710 へ。

### ●会費・カンパのお願い

今年も半年が経過しました。会財政はなんとかやりくりしていますが、厳しさは変わりません。会費の前納・カンパにご協力をお願いします。

## レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。

年会費 3,000円  
(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

現会員数 566名  
ウェブアクセス 1日 5000  
郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本  
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所  
普通 55002960  
入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org  
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578